

濁水かわら版

第105号 2020年12月18日号
 ぼけ防止を兼ねて 中安 宏規

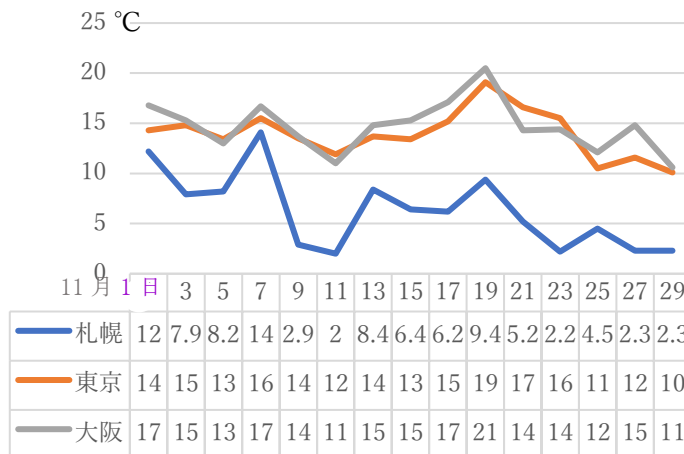
スペイン風邪から100年

11

第3波はスペイン風邪より悪質？

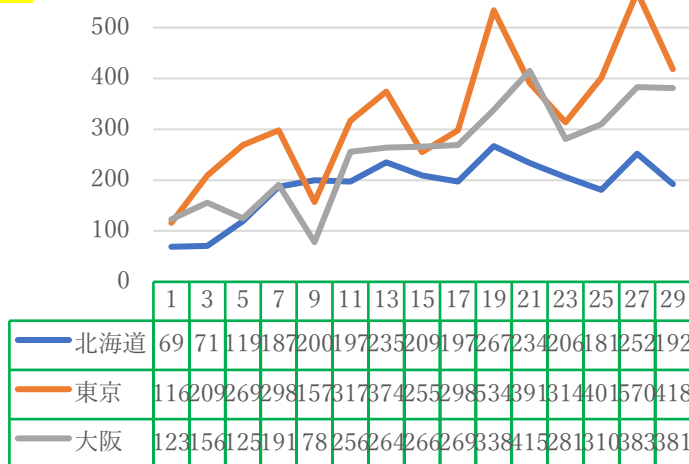
図A

札幌・東京・大阪の11月平均気温



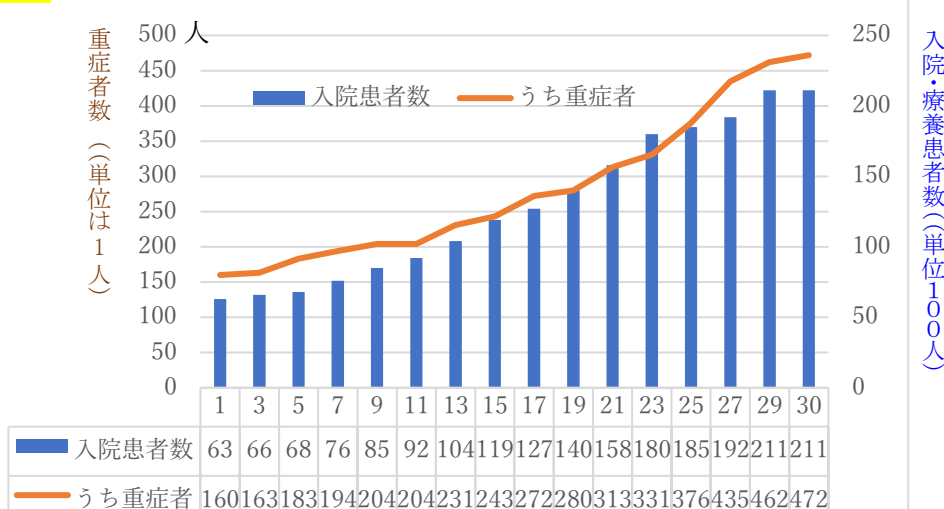
図B

3都市の新規感染者数の推移



図C

全国の入院・療養患者と重症者発生の推移



Prolog 10月の半ばからコロナ感染者が増え始め 11月11日、日本医師会の中川俊男会長が定例会見で「第3波と考えるとよいのではないか。このままでは全国で医療体制が逼迫するのは明らか」と述べた。同日開かれた厚労省のコロナ感染症対策アドバイザリーボードも「全国的な感染増加につながっている」と指摘した。私もそう考え、原因を考えてみました。

① 図Aは、感染拡大が注目されている札幌・東京・大阪の3都市の11月の平均気温を調べてみた。1日からの奇数日にしたのは、グラフ数値の混雑を避けるためだ。最初の1週間は3都市とも大差ないが、札幌は7日14.1度→8日8.4度→9日2.9度へ急降下、以後10度を超えたことがなく、本格的な冬へ向かったようだ。一方東京・大阪は、小春日和を感じさせ、新聞TVは各地の賑わいを伝えていた。

② 図Bは、3都市の新規感染者数をグラフ化した。北海道は月初めより2～2.5倍東京は4～5倍、大阪も3.5～4倍。東京と大阪は9日、16日、23日、30日がガクンと減っています。いずれも月曜日。コロナが週末疲れで休んだのではなく、金曜日集計の数値を月曜に発表しているようです。金曜日の集計を早めに打ち切る、また週末を休む市町村があるようにも思われます。北海

道が似て非なる理由は次ページ以降に記します。「何日ぶりに増えた…減った」の報道の判断は皆さん次第です。

③ 図Cは、全国の入院・療養中の患者(青棒)に重症患者の増加を折れ線で加えた。30日は患者2万1100人に対し、重症患者が472人です。この推移から入院・療養者の約2%が重症化しており、新型コロナウイルスの特徴の1つに思われます。 次頁へ

11月のNEWS 北海道で何が起きたのか？ 追跡しました。

図D Time	NEWS
7/22	政府、8月実施予定の Go To トラベル事業の批判を受けながら東京を外し強行する
7/31	東京の7月は感染者過去最高を6回記録。第2波を感じさせたなかでの Go To トラベルを実施
11/01	全国感染者 102,189 人、死者 1,775 人、入院・療養中 6,349 人 うち重症者 160 人
07	北海道、独自の警戒ステージを2から3にアップ 札幌市、飲食店の夜の営業の時間短縮を要請。 「札幌は北海道全体の感染者数の約 7 割を占めススキノを中心にクラスター（感染者集団）の発生が相次ぐ…」(毎日新聞朝刊より)
08	政府分科会報告（8日毎日新聞朝刊より） ★東京歌舞伎町・名古屋栄と錦・大阪ミナミ・福岡中洲は夏、飲食店対象の営業時間短縮を実施。 ★札幌ススキノは5月以降、営業時間短縮が行なわれず。結果として対応が後手に回った。
08	内閣支持率7ポイント減 57%（毎日朝刊）
08	世界の感染者 5000 万人超える
09	政府分科会が、感染拡大を懸念し「5つのアクション」からなる緊急提言を発表した。 ① 今までより踏み込んだクラスター対応 ② 対話ある情報発信 ③ 店舗や職場などでの感染防止策の確実な実践 ④ 国際的な人の往来の再開に伴う取り組み強化 ⑤ 感染対策検証のための遺伝子解析の推進
10	札幌市の特養で 56 人のクラスター確認。東京の新規患者 293 人。大阪の吉村知事「第3波に入った」と発言。
13	米大統領選全州確定 バイデン 306 トランプ 232
17	札幌市、警戒ステージ5段階中4へアップ
18	新規感染者 2000 人超える。東京の警戒レベル 3 から4に引き上げ
19	東京・大阪・北海道をはじめ愛知・兵庫・千葉・和歌山・山口の 8 都道府県で過去最多を更新。 ★東京の小池知事は会見で年末年始の「会食時の感染防止に5つの小(こ)を呼び掛けた。①少人数②小1時間程度③小声④小皿に分ける⑤小まめにマスク・換気・消毒を」。また重症化リスクの高い「65 歳以上の高齢者」の増加を心配した。16 日までの一週間に 197 人から 1.4 倍の 274 人へ。家庭内感染が 42%。無症状の陽性者は1週間で487人。全体の 23.4%を占めるという。

④ 図Dは 11 月の TIME&NEWS です。7月 22・31 日は、政府の Go To トラベル事業の強行(かわら版102号参照)が第3波を誘引したというのが、日本医師会などの見方です。11月1日の数値は、11月をテーマにし、俯瞰するためのスタート台の数値です。11月7日、北海道は政府の【新型コロナウイルス感染症対策分科会】(以下略称「政府分科会」)と違う独自作成の警戒ステージを上げ、飲食店に営業時間短縮を要請した。実は10月28日に1から2へアップした10日後である。8日の毎日新聞は、札幌が追い詰められた理由を「政府分科会報告」書の内容を伝えています。

⑤ 私は、札幌の弱点は北海道の1強都市ゆえと考えます。今年4月時点で北海道の全人口(外国人居住者含む)は 523 万人。札幌市は195万人(道人口の 37%)、2位の旭川市 33万人(同 6.3%)、3位函館市 25万人(同 12.8%)…。北海道の全24市の人口は419万人で道人口の 80%。札幌は全市の 46% 約5割の人口が集まる「1強巨大都市」。言葉は悪いが他の 23 市は中小零細企業クラスと思う。17日札幌はステージ4へアップした。

⑥ 菅内閣支持率低下は12月も止まらない。
⑦ 政府分科会発表の「5つアクション」は、前のめりの菅内閣への警告と、私は受け止めた。

①は「早期に判りにくいもの」と「閉じにくいもの」に分けた。前者は一部外国人や大学生らのクラブ活動。後者は接待を伴う飲食店など。

②は「3密や大声」のリスク、「会食を楽しむ工夫」、SNSを利用し若年層の忘年会対策などを推奨。③④⑤はアクションの見出しで判ると思いますが、政府の実態把握の遅れを指す。

⑧ 10日の3都市の状況はバラバラ。東京都は新規患者239人の内訳を図E・Fのように毎日公表している。図Eの備考欄を見て頂くと20代

図E 11/10 日東京の新規感染者		
年 代	人数(%)	備 考
10 歳未満	2 (0.7)	計 7 人で全体の 2%
10 代	5 (1.7)	
20 代	70 (23.9)	計 228 人で全体の 78%約 8 割を占める
30 代	60 (20.5)	
40 代	53 (19.1)	
50 代	45 (15.4)	
60 代	26 (8.9)	計 46 人で全体の 16%
70 代	20 (6.8)	
80 代	5 (1.7)	計 12 人で全体の 4%
90 代	7 (2.4)	
65 歳以上	46 (15.7)	全体の 16%
計	293 人	

図F 11/19 日東京の新規感染者		
年代	人数(%)	備考
10 歳未満	4 (0.7)	計 31 人で 全体の 6%
10 代	27(5.1)	
20 代	130(24.3)	計 416 人で 全体の 78% 図Eと変わら ず
30 代	110(20.6)	
40 代	96(18)	
50 代	80(15)	
60 代	31(5.8)	計 73 人で 全体の 14%
70 代	42(7.9)	
80 代	10(1.9)	計 13 人で 全体の 2%
90 代	3(0.6)	
65 歳以上	69(12.9)	全体の 13%
計	534 人	Fの 1.8 倍

から50代まで働く世代は計 228 人。全体でほぼ8割を占める。一方 60～70 代と65歳以上は100人中6～7人。80代以上も節度を守っている感じだ。図Eと図Fの備考欄人数の(%)の±2%以内は誤差の範囲と考えた。青字ゴシックは改善、黒字ゴシックを悪化とすると中高生中心の10代が要注意。働く世代の割合は変化なく1頁図Cの特徴と似ていると思います。次頁へ

政府と北海道の 2 つの警戒レベル＝ステージ(S) の違い

図G 警戒レベル＝政府のステージ		北海道の警戒ステージの状況と対応	
S1	感染者の散発的発生	S1	感染者が散発的発生しており、医療供給的に大きな支障がない
S2	感染者の漸増 北海道のS2・S3	S2	政府のS2相当 感染者の漸増及び医療供給体制への負荷が蓄積する段階 *3 密など医療体制の蓄積 感染者がさらに増加し、医療供給体制への負荷がより一層高まる段階 *3 密など集団感染などで医療体制の対応が必用
S3	感染者の急増 ①最大確保病床の占有率 20%以上。または確保病床数占有率が 25%以上 ②10 万人当たり療養者15人以上 ③PCR陽性率 10%④10 万人当り新規感染者 1 週間 15 人以上⑤直近 1 週間が先週 1 週間より多い ⑥感染経路不明割合 50%	S3	
S4	爆発的な感染拡大 * 下の○数字はS3 の条件に対応する ①最大確保病床の占有率が 50%以上 ②25 人以上 ③S3 と共通 ④25 人以上 ⑤⑥S3 と共通	S4	感染者の急増及び医療供給体制における大きな支障の発生避けるための対応のような段階 *S3 に集団感染が多発するなど一般医療の大きな支障を避ける)
		S5	爆発的な感染拡大および深刻な医療供給体制の機能不全避けるための対応が必要な段階 *爆発的な感染拡大で医療体制が機能不全に陥ることを避ける

TIME	NEWS 続き
11/19	フィンランドから毎年、日本にやって来るサンタクロースが、コロナ禍で来日中止が報道される。
11/20	政府分科会、Go To1 トラベルの見直しを提言。理由は一部の都道府県で政府が決めたステージ 3 に入りつつあり、①飲食店の営業時間短縮②感染拡大地域への移動の自粛③Go Toトラベルなど Go To キャンペーンの見直し ④経済・雇用への政府の支援 ⑤飲食を伴う懇親会など回避やテレワークの推進の 5 点。
11/20	米製薬ファイザーと独バイオ企業ビオンテックがコロナワクチンの緊急時使用許可を米食品医薬局 (FDA) へ申請した。4 万 3000 人が参加した臨床試験で有効性は 95%と発表。
11/22	国内死者 2000 人突破
11/24	札幌市と大阪市は Go Toトラベルを同日から 12月15日まで中止
11/25	世界の感染者 6000 万人超える。
11/27	Go Toイートのプレミアム付き食事券を北海道・東京・茨城・埼玉・千葉・神奈川・静岡・愛知・大阪・兵庫の 10 都道府県が発行を停止。
11/28	東京都は 12 月 17 日まで酒類を提供する飲食店とカラオケ店の営業を午後 10 時までにするよう要請。全面的に協力した中小の店には 40 万円の協力金を支給する。対象は約 4 万 5000 店
11/30	★全国感染者 149,145 人 (1 日比 1.46 倍) ★死者 2,152 人 (同 1.21 倍) ★入院・療養者 21,069 人 (同 3.32 倍) うち重症者 472 人 (同 2.95 倍)

⑨ 図Gは、コロナの流行状態を示す政府と北海道独自の警戒レベルを示すステージです。Stageは辞書によれば、ラテン語の「立つ所」の意からの語で、舞台・段階・がんの病期・駅馬車の駅・行程など広い意味を持つらしい。コロナ禍では、担当の記者らは熟知して、「第2ステージから危険な第3ステージへ…」のように報道しているが、私は具体的内容を知らなかった。そこで関係HPから、引張だして政府の4段階ステージと北海道の5段階ステージを図Gで併記した。北海道は独自の警戒ステージを設定した理由を次のように記している。

①政府分科会は「今後想定される感染状況と対策について」、感染状況を 4 段階に区分し、移行の目安となる指標と、それぞれのステージで「講ずべき施策」を示した。

②道としてはこの提言に準ずることを基本としつつ、本道にける感染拡大を効果的に抑え込むためには、感染者が急増する前の段階が重要であることから、本道の実情を踏まえて指標及び講ずべき施策を設定する。

③以下は青字タイトルで推定可能で省略するが、「本道の実情」の具体的内容は示していない。私は、2 ページに記した北海道関係の話が紙背にあるように考えます。政府分科会は数字を基本に据えています。北海道は数字を省いた記述。解釈の幅が広く政治的思惑を含め意思決定が遅れるように感じた。実際、2頁7日・8日に記している ✓

右(から)ように、数字のない文学的表現は、トップ以下、それぞれの立ち位置で政治的判断の解釈が生じたり、意思決定が遅れたりする可能性が高いように思います。一方、政府分科会は学者集団。ステージ

3・4 は具体的数字で縛っており、私の記憶では、菅政権は 11 月、2 回にわたり政府分科会から警告を受けた。専門家の意見を無視する政権運営に国民は失望し支持率が急降下した。次頁へ

スペイン風邪と日本の新型コロナを比較してみると…

スペイン風邪を超える死亡割合 !?

第五表甲 流行性感冒月別患死者表 (大正七、八年流行)

備考 本表ハ左記二十府県ニ於ケル事實ノ統計ナリ
京都、兵庫、新潟、群馬、三河、愛知、静岡、滋賀、岐阜、山形、福井、富山、島根、広島、和歌山、香取、高知、佐賀、鹿児島

府県	大正七年		大正八年		患者数	死者数	患者100人当り死者数
	患者数	死者数	患者数	死者数			
京都	1,047	6	1,047	6	1,047	6	0.57%
兵庫	1,047	6	1,047	6	1,047	6	0.57%
新潟	1,047	6	1,047	6	1,047	6	0.57%
群馬	1,047	6	1,047	6	1,047	6	0.57%
三河	1,047	6	1,047	6	1,047	6	0.57%
愛知	1,047	6	1,047	6	1,047	6	0.57%
静岡	1,047	6	1,047	6	1,047	6	0.57%
滋賀	1,047	6	1,047	6	1,047	6	0.57%
岐阜	1,047	6	1,047	6	1,047	6	0.57%
山形	1,047	6	1,047	6	1,047	6	0.57%
福井	1,047	6	1,047	6	1,047	6	0.57%
富山	1,047	6	1,047	6	1,047	6	0.57%
島根	1,047	6	1,047	6	1,047	6	0.57%
広島	1,047	6	1,047	6	1,047	6	0.57%
和歌山	1,047	6	1,047	6	1,047	6	0.57%
香取	1,047	6	1,047	6	1,047	6	0.57%
高知	1,047	6	1,047	6	1,047	6	0.57%
佐賀	1,047	6	1,047	6	1,047	6	0.57%
鹿児島	1,047	6	1,047	6	1,047	6	0.57%
合計	20,940	126	20,940	126	20,940	126	0.60%

⑩ 図 H は 1918(大正7)年 10 月から翌 19 年 5 月までのスペイン風邪第1波での月別の患者数と死者数の表です(内務省編「流行性感冒」より)。市部と郡部では、郡部が市部に比べ圧倒的が多い。流行は市部から始まり郡部へ拡大したと書かれています。人口も郡部が多く、衛生環境も悪かったように思いますが、あくまで私の推測です。左の欄外に京都・兵庫・新潟など「20府県の事実の総計」と記しています。

この表と 100 年後の現在進行形の日本の新型コロナの死者数を比較してみた。当時の20府県の人口が判らないので、赤字で囲った患者数と死者数で「患者 100 に対する死者の割合」を計算しました。計算式は、死者数÷患者数×100%=××%

★1918 年 10 月: $6,446 \div 1,047,934 = 0.62\% = 0.62$

★同 11 月: $31,818 \div 2,689,613 = 1.18\% = 1.18$

★2020 年 10 月: $1,769 \div 101,576 = 1.74\% = 1.74$

★同 11 月: $2,152 \div 149,145 = 1.42\% = 1.44$

ビックリ仰天! 医学が進歩し、衛生環境も良いはずの現在の日本で、新型コロナの患者 100 対死者の割合がスペイン風邪より悪いのはなぜだろう。

⑪ 図 I は 12 月 17 日時点の「感染者 100 に対する死亡割合」です、18 日朝刊を基に選んで多い順に並び変えてみた。①赤字で記した 3.0%以上は北海道など東北・日本海側の道県である。18日は

図 I

地域	感染者	死者	感染者 100 に対する死亡割合 (%)
富山	484	26	5.37%
石川	938	50	5.33%
岩手	329	12	3.65%
福井	337	11	3.26%
北海道	11,789	358	3.04%
新潟	422	3	3.00%
兵庫	7,856	128	1.63%
福岡	6,998	111	1.59%
全国	191,078	2,793	1.46%
神奈川	16,003	230	1.44%
大阪	26,233	351	1.34%
東京	49,490	557	1.13%
愛知	13,536	152	1.12%
奈良	1,545	15	0.97%

2%以下

右から) 豪雪に見舞われている。同時に東京から距離が遠い。② 上記6道県以下は総て2%以下。全国の1.46%から0.2ポイント以内が兵庫・福岡・神奈川・大阪の大都市圏。感染者トップの東京・愛知は、スペイン風邪当時の11月相当の死亡割合である。

⑫ 叩き上げの中身は叩き大工

菅首相は叩き上げが受けて総理大臣の椅子を手にした。再三の警告に12月14日、年末年始の Go To トラベルの中止を表明したが、叩き上げの政治姿勢は、叩き大工なみのお粗末なものと感じている。次回は年内を予定